

仕舞と講演

日本 伝統芸能の 国際化

—世界文化としての能楽—

【実演】

仕舞 「敦盛キリ」 高谷大悟
「巴」 宇高德成
「八島」 宇高竜成
「実盛」 宇高通成

【講演】

「能界に於ける素人の役割」

ペレッキア・ディエゴ(高谷大悟)

／衣笠総合研究機構プロジェクト研究員

[日時]

2014年 1月 8日(水)

16:30-18:30

[会場]

立命館大学衣笠キャンパス

アート・リサーチセンター

多目的ルーム

入場無料・予約不要

[企画] 立命館大学赤間研究室プロジェクト・エイト

[主催] 立命館大学アート・リサーチセンター



立命館大学アート・リサーチセンター特別講座
仕舞と講演



日本伝統芸能の国際化

—世界文化としての能楽—

さまざまな分野でのグローバル化が進む中、日本の伝統的な文化もその大波に巻き込まれています。今回、イタリアからペレッキア・ディエゴ氏を迎え、「日本の能」を成り立たせる制度に関する研究成果についてお話をさせていただきます。また、能楽の国際化を実践している金剛流宇高通成師を迎えて、対談形式により「日本」の能楽がどうあるべきかを考えます。能楽の実演（仕舞）も併せて観賞いたします。



◎ プログラム

16:30	ご挨拶
16:40	実演 仕舞 「敦盛キリ」 高谷大悟 「巴」 宇高德成 「八島」 宇高竜成 「実盛」 宇高通成
17:00	休憩
17:10	講演 「能界に於ける素人の役割」 ペレッキア・ディエゴ
17:45	対談 宇高通成 × ペレッキア・ディエゴ
18:30	終了予定

◎ 講師プロフィール



宇高通成 (うだか みちしげ)

シテ方金剛流能楽師。重要無形文化財総合指定保持者。
1947年生。金剛宗家・二世金剛巖師に師事。これまでに「翁」「道成寺」「卒都婆小町」「木賊」「鸚鵡小町」などを披く。1985年 国際能楽研究会 (INI) 創立。1986年 日米文化交流の会・能楽公演団長。松山藩お抱え能役者の家系を継ぐものとして、1991年には初世宇高六兵衛喜太夫追善能を開催し、1997年に明治まで続いた松山稽古舞台を再興。外国人を含む20名の師範を育成し、その内9名が能楽協会員(プロ)として活躍するなど、能楽の国際化に多大な貢献をしている。



ペレッキア・ディエゴ / 高谷大悟 (たかや だいご)

2013年度国際交流基金フェロー。立命館大学衣笠総合研究機構プロジェクト研究員。
1979年生。2006年に国際能楽研究会 (INI) ミラノ支部会員。2007年に金剛流宇高通成師に師事し、2012年に来日。宇高師の指導のもとに能を学び、師範の免許を目指している。仕舞、舞囃子、地謡等を経験し、2013年金剛能楽堂で「清経」のシテとして初めて舞台に立つ。2011年にロンドンのロイヤル・ホロウェイ大学大学院演劇学部博士課程修了。主な論文に「ヨーロッパ演劇における能楽の受容・美学と倫理」。イタリア、英国で日本伝統芸能を広めるため、講演、ワークショップ等を実施。執筆活動も盛んに行っている。



[企画] 立命館大学 赤間研究室プロジェクト・エイト

[主催] 立命館大学アート・リサーチセンター

[お問い合わせ] 立命館大学アート・リサーチセンター事務局

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 TEL. 075-466-3411 (平日 9:00-17:30)

e-mail: arc-jimu@arc.ritsumei.ac.jp

※立命館大学アート・リサーチセンター(ARC)は、立命館大学 衣笠キャンパス構内にあります。衣笠キャンパスには、ご利用いただける駐車場がありませんので、周辺の有料駐車場をご利用いただくか、各種公共交通機関をご利用ください。

